



ハルナビバレッジ株式会社  
Business Promotion



ハルナビバレッジファクトリー株式会社  
Production



ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社  
Financial



HARUNA株式会社  
Global business



ハルナロジстиクス株式会社  
Logistics



ウェルネスサイエンス研究所  
Institute (Research and development)



ハルナビビジネススクール  
Human resource



### 創業者／青木清志

創業者、青木清志は貿易商社勤務を経て、いまから16年前の1996年に創業の地となる群馬県の榛名に、ハルナビバレッジを創業。流通大手のプライベート・ブランドや飲料を扱う大手メーカーのペットボトル飲料の受託製造を手がけ、現在では海外事業、研究開発を行うグループ企業となりました。

### 〈社会活動〉 2011年4月～2012年6月

2011/05/25	日刊工業新聞	記事 はじめなければはじまらない出版
2011/06/27	日刊工業新聞	記事 自社調達を拡大
2011/07/14	群馬産業人クラブ主催	第48回定時総会 記念講演
2011/07/30	日本経済新聞社	記事 赤城山の水地元名物に
2011/09/27	日刊工業新聞	特別企画 トップ対談
2011/11/01	P H P 研究所	書籍 トップが綴るいま伝えたい感謝の心
2011/11/01	ラジオ日本	番組 こんなには!鶴崎清夫です
2011/11/10	日本経済新聞社	記事 4～9月純利益最高に
2011/12/15	日本経済新聞社	記事 飲料輸出アジア進出
2011/12/19	日経産業新聞/日経M.J	記事 飲料輸出アジア進出
2011/12/21	中小機構	ビジネス支援サイト
2012/02/09	日本経済新聞社	記事 4～12月純利益最高に
2012/02/22	長野産業人クラブ主催	新春講演会基調講演
2012/02/28	上毛新聞	記事 工場にネットワークカメラ
2012/02/29	日本経団連	第88回シンポジウム
2012/03/01	ぐんま経済新聞	記事 生産現場の見える化実現
2012/03/06	日刊工業新聞	記事 ウェブカメラ導入
2012/03/14	日本経済新聞社	記事 生産ライン「見える化」
2012/04/11	フジ産経ビジネスアイ	記事 ネクストステージ
2012/04/25	ハルナビビジネススクール	2012年度キックオフ講義
2012/05/21	日刊工業新聞	オピニオン「主張」
2012/06/07	日本経済新聞社	記事 3月期連結決算
2012/06/27	千葉産業人クラブ主催	第49回記念講演会

## ハルナビバレッジ株式会社

- 法人設立
- 所在地

1996年2月23日  
東京本社: 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル2F  
TEL: 03-3275-0191 FAX: 03-3275-0192

高崎本社: 〒370-0841 群馬県高崎市栄町4-11 原地所第2ビル9F  
TEL: 027-387-0101 FAX: 027-387-0102

SCM Unit: 〒370-3504 群馬県北群馬郡棟東村広馬場3044-12  
TEL: 0279-55-1241 FAX: 0279-20-5780

商品開発Unit: 〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3  
TEL: 027-384-4747 FAX: 027-310-0070

環境・品質保証: 〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-1  
TEL: 027-372-6911 FAX: 027-372-6912

- 資本金
- 連結売上高
- 事業内容
- グループ正社員総数
- 役員

4億2,090万円(発行済株式数8,718株)  
177億円(2012年3月末)  
グループ戦略・グループ財務経営・営業活動・市場開拓・商品開発共同購入活動・SCM  
316名(2012年4月現在)  
取締役グループ最高経営責任者 青木 清志  
代表取締役社長 青木 麻生(経営執行責任者)  
栗原 健一(財務・人事・情報)担当  
中澤 幹彦(生産・環境・品質)担当  
山崎 敦也(営業)担当  
有田 喜一(群栄化学工業株式会社代表取締役社長)  
須齋 崇(国立大学法人群馬大学及び宇都宮大学客員教授)  
三浦 真吾(株式会社NHKコンピューターサービス前代表取締役社長)  
小出 信介(小出公認会計士・税理士事務所所長ハルナビバレッジ前代表取締役社長)  
杉山 学(国立大学法人群馬大学社会情報学部教授)

### 2012年度 ハルナグループ経営基本方針

ハルナビバレッジ株式会社 代表取締役社長

青木 麻生



2012年度(2012年4月～2013年3月)は、ハルナビジョン2015の第一次三カ年計画の最終年度になります。2010年度、2011年度と2年連続での增收増益を達成することが出来ました。これは、ハルナビジョン2015の実現に向け、社員一人ひとりがビジョンと戦略を理解し着実に実行してきた成果です。しかし、11年度は震災による特需などの特殊要因も影響となつたことを忘れてはなりません。

2012年度はマーケットや経営環境は凄まじく変化します。この変化に適切に対応し、お客様に満足と喜びを提供する価値ある仕事を全員の知恵と努力により実行していくことが、グループの更なる発展とステークホルダー皆様の幸せに繋がることを確信し取り組んでいきます。

これからもハルナグループにどうかご期待ください。

#### 1. 基本方針

ハルナビジョン2015の更なる成長ステージへの挑戦  
2012年度計画→グループ連結売上高 180億円 営業利益 3.5億円 売出数量2800万ケース

#### 2. 経営ビジョン

顧客満足度業界ナンバーワンになるために  
利益を伴う持続的成長のために  
顧客・社員を中心としたステークホルダー皆様の幸せのために

#### 3. 基本戦略

営業・商品開発による新製品・新規顧客への機動的営業強化  
顧客本位の魅力ある商品提案と新規製品の開発・生産  
営業・SCMによる自社及び協力企業との全体最適なサプライチェーンのオペレーション  
生産体制のローコストオペレーション  
プラントシステムイノベーション(PSI)の着実な実行と成果の追及。  
高い生産性・高い稼働率・高い品質・高い生産技術力の実現。  
国内・海外パートナー企業とのWIN/WINによる連携・提携強化  
ハルナビビジネススクールを核として現次世代の経営者、中堅幹部社員育成を目的に社内外の経営陣・講師による人財成長の支援強化。

# ハルナビバレッジファクトリー株式会社

Profile

■法人設立	2009年4月1日
■所在地	本社／ハルナ工場：〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-1 TEL:027-372-6911 FAX:027-372-6912 タニガワ工場：〒379-1307 群馬県利根郡みなかみ町政所1011 TEL:0278-62-1111 FAX:0278-62-1144
■資本金	4億円(ハルナビバレッジ100%出資)
■売上高	35億円
■事業内容	清涼飲料水の製造販売・品質管理・天然水製造販売・豆乳受託事業・ペットボトル容器成型 共同事業
■社員数	218名
■役員	代表取締役会長 青木 清志 代表取締役社長 中澤 幹彦(ハルナビバレッジSCM【生産・環境品質・物流】担当執行責任者) 取締役 青木 麻生(ハルナビバレッジ経営執行責任者) 取締役 栗原 健一(財務・資金担当) (ハルナビバレッジ財務・人事・情報担当執行責任者)

## HGテーマ「sustainability」経営 「未知なるモノへの挑戦!・Plant·system·innovation」

ハルナビバレッジファクトリー株式会社 代表取締役社長  
中澤 幹彦



2012年はハルナグループにとって新たな挑戦の一年になります。経済は疲弊し、国防面での問題等、厳しい時代を迎えてますが、過去の常識に囚われず、新たなるものを生み出すことが未来への近道ではないでしょうか。

組織、人事を含め、すべてを真のチャレンジャーとして取り組み、社員一人ひとりが自覚と責任を持ちクリエイティブな発想とイノベーターとして成長を続ける必要性があり、こういった努力の蓄積が「未来への一手」を掴むことになると確信しております。

明るい未来を信じ、社員と共に夢を持ち、勤勉であることこそが最大の武器であります。

- 1. チャレンジする勇気が道を開く
- 2. 人の評価は後からついてくる
- 3. 仕事上の失敗に耐える力も人生の実力である
- 4. 足りない物があるからこそ人は努力する
- 5. 成功のビジョンをありありと描き努力を続けて行こう!
- 6. 達成する喜び、仕事の楽しみを知ろう!

## HFテーマ「未知なるモノへの挑戦！」

常識に囚われず、未知なるものを恐れず、新たなるものを創造し、顧客満足度業界ナンバーワンを目指す！  
「Plant·system·innovation」

一人一人がスペシャリスト・ゼネラリストを目指し  
グループをつなぐシステムとして、業務と理念を  
共有し現場の見える化と透明化を行うことにより  
顧客満足度業界ナンバーワンを目指してまい  
ります！

- ①グループ理念の共有
- ②智を中心とした集約型の生産経営の実践
- ③妥協無き品質向上化対策・環境対策の実践
- ④聖域無きinnovationの実践
- ⑤システム化による「見える化」「透明化」の実践
- ⑥システム化・現場活動による生産性の向上、合理化
- ⑦学ぶことで人は変わる！人材innovationの実践！
- ⑧エネルギーの未来構想と省エネ化実践

# ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社

Profile

■法人設立	2008年4月1日
■所在地	本社：〒370-0841 群馬県高崎市栄町4-11 原地所第二ビル 9F TEL:027-387-0101 FAX:027-387-0102
■資本金	5,000万円(ハルナビバレッジ100%出資)
■事業内容	人事管理・資金調達及び資金管理／運用・会計業務・情報ネットワークの構築／管理・人材教育

■役員  
代表取締役社長 栗原 健一(ハルナビバレッジ財務・人事・情報担当執行責任者)  
取締役 青木 麻生(ハルナビバレッジ 経営執行責任者)

## 未来につながる否定 ～Innovative Manner～

ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社 代表取締役社長  
栗原 健一



2012年度(2012年4月～2013年3月)は、眞の実力が試される年であるとともに、新たなステージへ向けて組織と仕組みを構築する大変重要な年になります。

景気の波に左右されない安定した堅実な経営を実現するためには、「人」と「現場力」の強化が必要不可欠となります。今日成功しても、明日以降も成功を続けらる保証は何もありません。「人」も「現場」も日々進化していくかなければなりません。その為には、失敗という「結果」の考察からはじまり、「現状を否定」するという思考・習慣を根付かせることが必要となります。今日に照準を合わせるのではなく、現在の仕事の壁に穴を開け、「定説」を覆し、明日に照準を合わせ、現状を常に前向きな視点で否定し、「未来につながる否定」へとすることが大事なのです。

私どもは、皆様方の「安心」と「笑顔」のために、これからも「愚直」に、そして「思いやり」をもって挑戦し続けて参ります。

## CSV(共有価値の創出)と地球と社会のSustainabilityに向けて



- |                            |                                   |
|----------------------------|-----------------------------------|
| A : Agility (俊敏に、スピード)     | V : Visualization (見せる化)          |
| C : Communication (意志疎通)   | I : Induction (帰納法)               |
| C : Compact (無駄のない)        | A : Analogy (推論、結びつける)            |
| E : Embody (具現化)           | B : Best (最適)                     |
| S : Smart (気のきいた)          | L : Loyalty (忠誠心)                 |
| S : Sustainability (持続可能性) | E : Employee Satisfaction (従業員満足) |

■法人設立	2002年7月29日
■所在地	本 社:〒103-0027 東京都中央区日本橋3-8-4 日本橋さくら通りビル 2F TEL:03-3517-5745 FAX:03-3517-5759
■資本金	1億円(ハルナビパレッジ100%出資)
■事業内容	飲料製品の輸出・販売、飲料製品の輸入・販売、飲料製品の製造・販売、飲料製品の企画・開発
■社員数	13名
■役員	代表取締役社長 青木 清志 取締役兼常務執行役員 青木 日出生(貿易・営業・開発担当)

## ハルナグループの技術とユニークな飲料を世界に繋げて

HARUNA 株式会社 取締役兼常務執行役員

青木 日出生



ハルナグループでは、長年培ってきた飲料製造の「ものづくり」のノウハウとグループの利点を生かし、国内はもちろん海外においても飲料食品事業を積極的にチャレンジしていきたいと考えます。

HARUNA(株)では、国内でユニークで美味しい飲料をお届することを中心とし、またそれぞれの国や地域の食文化やニーズを見据えた、新しい商品を提案しています。スウェーデンより100%天然素材を使用したスムージー飲料と自然豊かなオーストラリア産の果実のみを使用したストレート果汁、自然な素材のみを使用した英国産エナジードリンク、健康に良いオリーブ等々を輸入し国内でも好評を得ております。また、さまざまな茶系

飲料とミネラルウォーターの製造販売も低価格高品質を目指し徐々に拡大をしてきております。

近年、健康志向が高まる中、科学的研究や品質管理技術を基礎として健康・ライフサイエンス分野の事業として、ウェルネスサイエンス研究所を設立しました。科学的な根拠による裏付けと徹底した品質管理に支えられた商品を創造し、安全で安心できる商品を私たちがお届けできることで、世界中の人々が健やかな生活を送れる事を願い、日々前進を続けていきます。

ハルナグループの技術とユニークな飲料を世界に繋げていきたいと考えます。

## 海外戦略

高付加価値商品の企画：ハルナグループの技術と研究、商品レシピのノウハウを日本市場はもちろん海外パートナーと共に創り上げていきたいと考えます。

少子高齢化：人口減少等による食品全般の市場縮小が進む中、飲料を中心としたビジネス展開を考え、現在アジアの新興国を中心に経済成長が高い市場もしくはニーズがある国にターゲットを絞り、積極的な販売または業務協力・提携等をする必要があると考えます。新しい試みでありますが、輸出入の観点・飲料製造のノウハウによる技術提携または将来現地製造も視野に入れビジネスチャンスを創造し、新規ビジネスを日本国内に限らずチャレンジすることが今後HARUNA(株)の成長する1つの大きな目標であり、使命だと感じております。またそれらのビジネスを1つ1つ経験し確実に重ねる事によるさまざまな事業の成長と拡大が計れと信じております。これらのビジネスを少しずつ成功させ企業価値を高め、ステークホルダーの皆様に魅力と夢ある企業体として大きく成長したいと考えております。

■法人設立	2005年10月1日
■所在地	本 社:〒370-3504 群馬県北群馬郡榛東村広馬場3044-1 TEL:0279-25-8385 FAX:0279-55-6671
■資本金	3,000万円
■売上高	8億円
■事業内容	倉庫業務・荷役作業および貨物自動車運送事業、貨物運送取扱事業
■社員数	48名
■役員	代表取締役社長 青木 清志 取締役 栗原 健一

## バリューチェーンイノベーションによるグループシナジーの創出 【顧客創造ネットワークの構築と非連続時代におけるお客様満足の飽くなき追求】

### ■バリューチェーンイノベーション

国内貨物の輸送量は、90年代をピークに年々減少し、現在の国内貨物輸送量は2010年度(予測)で4,667百万トンとピーク時の7割程度になっております。運送事業者数は、2008年度末で62,897者と規制緩和以降の18年間で1.5倍以上増加してきましたが、輸送需要が伸び悩む中、競争が激化し撤退事業者数は増加し、2008年度末は規制緩和以降初めて総事業者数が前年度より減少しました。今後も厳しい状況は更に増し、業界の再編が急激に進むことが予想されます。

また、大量生産・大量消費から個別化という非連続的な流れに移行し、サービスの複雑化と高度化が更に進み、単純な倉庫管理や輸送業務のみでは生き残れない時代となっていました。

このようななか当社では、単にお客様の商品をお預かりし、正確にお届するだけの従来のロジスティクス業務からの脱却を図り、業務の川上から川下までをトータルに請け負い、お客様満足の更なる向上と戦略的パートナーとしての位置づけを確立し、グループシナジーの創出と永続的な発展を目指します。

### ■具体的施策

- ① 原材料・資材・包材等の調達、保管、管理から始まり、お客様へ商品をお届するまで一貫したサービスと情報提供を行い、バリューチェーンのイノベーションを図ります。
- ② 自社倉庫の新設とマルチクラウドコンピューティングによるチェーンコントロールシステムを構築し、Webクラウドを積極的に活用したシームレスなユビキタス環境を実現し、私どもがコントロールタワーの役割を果たし、リアルタイムに戦略的な分析データを全てのお客様に対し提供させていただき、ステークホルダーの皆様の最大最適を実現させます。
- ③ ソフトアライアンスを積極的に行い顧客ニーズに沿った多様なサービス展開を図ります。
- ④ 当社のシステム・技術ノウハウを活かし、マネジメントとオペレーションを両立させた新しいSCM手法を確立し、お客様のコストダウンと更なるお客様満足度の向上を図ります。
- ⑤ 購買・物流・倉庫等全てのネットワークを活用し、個別化という非連続に対応した新たな顧客満足を創出します。



■設立	2007年4月1日
■所在地	〒370-3531 群馬県高崎市足門町39-3 TEL:027-372-1230 FAX:027-372-1255
■事業内容	機能性素材・原料の研究開発 機能性分析と解析 機能性原料と製品の臨床検査 機能性原料の製品化設計・試作
■所長	博士(医学) 青木 陽生
■アドバイザー	博士(農学) 邑上 豊隆 博士(医学) 五島 知郎 博士(医学) 伊谷野克佳
■主任研究員	博士(生命科学) 井上あやの

ウェルネス(wellness)という言葉には「人々がいつまでも健やかで明るい日々を過ごせるように。」というハルナグループの願いが込められています。

研究所ではこの「ウェルネス」の最も重要な要素の一つに「飲食」があると考え、世界各地で飲まれている健康茶について本格的に研究を開始いたしました。原料の機能性の検証のみにとどまらず、おいしさや吸収性、その他製品トータルとしての可能性について検証を行い、新たな技術の構築を目指します。

安全・安心な機能性食品の開発には、確かな科学的根拠による裏付けと徹底した品質管理が必要不可欠となります。研究所では、関係各分野が専門の先生をお招きしてアドバイザーになっていただき、研究の科学的根拠の客観性と信頼性を高めるよう努めています。また、商品化に向けて営業ユニット、開発ユニット、品質管理ユニット、社会環境ユニット、などすべての部署と連携しながら、皆様に喜ばれる健康により製品について研究しています。  
「願いを実現する。」ウェルネスサイエンス研究所では、このことを常に意識しながら今後も成長できるよう日々努力を続けていきたいと考えております。

主任研究員 井上あやの



## 健康科学と代替医療

ウェルネスサイエンス研究所 所長  
医学博士

### 青木 陽生

現代の健康志向の風潮は、健康を客観的に考えるだけではなく、受動的な面よりも自己制御的な行動面が強調される。また健康の目標も個別的となり、生きることの目標との調和を保ち、日常の生活習慣との整合性を重視するようになった。

したがって健康科学の理念は、当然のことながら生体を「自己」を主体に精神と身体は不可分の実体であるということが、有機体としての人間の恒常性を健全に維持するために、そして健康科学を有用な実学として成り立たせるための中核的な理念となる。

いわば、人間が自らの内外の環境や社会文化環境に対してもつ願望と、あらゆる可能性を主体的に実現していく自己実現の理念である。

すなわち要約すると、医療に全面的に依存するのではなく、自分の人生・健康についての自己責任を自覚して、心身の観察によって必要な変容・変革を実践継続することである。

このような健康志向と、生体の恒常性維持のメカニズムを理解するには、身体と精神の関係性を探り、医療の不確実性を補完する行動科学と、心身の自己防御を可能にするリハビリテーション、そして生命活動を保全する栄養科学などの三要素の機能を知ると共に、これらがいかなる原理によって健康という目的に向かってコントロールされ、総合されるかを究めなければならない。

それは、健康科学の理論的な根拠と、その産業的な健康プロモーションの応用理論の構築に示唆を与えるであろう。

このような研究領域を、どのように定義し呼称するか定説はない。

制度化された既存の学問を横断することで、模索を続ける動的・実験的な試みであると考えられるが、人間が自律的、主体的に健康と現状に適合する幸福を追求するための科学であるとすれば、これをWellness scienceと呼ぶことにしたい。

そして、健康科学を総合的な立場から検討することが期待される、ライフサイエンスという立場から、健康科学の理論的な秩序を考えるとき、Wellness scienceをミクロ秩序、ヒューマンサービスシステムをマクロ秩序として、健康科学を駆使する研究と、産業的応用の座標として提示する。

## ハルナグループ沿革

1996	2月	平成8年2月23日に資本金30百万円でハルナビバレッジ株式会社を設立・第一工場稼動
	5月	第1回株式上場準備委員会開催
	8月	金融機関に対し月次決算の開示
	11月	東京にマーケティング本部設置
1997	3月	従業員持株会発足
	5月	ハルナビバレッジ研究所設立
	6月	第二工場稼動
	9月	第1回転換社債発行
1998	5月	第2回株式上場準備委員会開催
	10月	新日本監査法人による調査及び指導開始
1999	5月	新日本監査法人による第四期決算調査及び指導
2000	2月	第三工場稼動
	5月	総合衛生管理製造過程(HACCP)取得に向けた合同委員会発足
2001	5月	新日本監査法人による第六期決算調査及び指導
	8月	第三工場がJAS工場として認定
2002	2月	リサイクルシステム協議会発足
	3月	第5回第三者割当増資及び役員社員に対しストックオプション付与
	5月	新日本監査法人による第七期決算調査及び指導
	8月	四半期報告会を開催
2003	3月	HACCP認証取得に向け取り組み
	4月	環境会計導入
	4月	企業競争力の強化を図るため市場開発部門を設置
	4月	提案型企業への変革を目指し商品開発部門を設置
	4月	HACCPの考え方を充実させるため「総合衛生管理委員会」発足
	5月	新日本監査法人による第八期決算調査及び指導
	8月	中小企業経営革新計画承認(中小企業経営革新支援法)
	10月	「デカテス」産学官共同プロジェクト発表(高崎健康福祉大学・群馬県)
	12月	人材教育投資、生産合理化投資、総合衛生管理(HACCP)対応投資
	12月	第二工場において、クリーンルームと充填設備増設
2004	3月	第29回国際食品飲料展FOODEX JAPAN2004出典
	10月	人事基本理念制定
2005	3月	物流関連企業ハルナロジстиクス株式会社設立
	4月	「製造者養成ビジネススクール」を開講(ハルナビバレッジ研究所附属)
	6月	ハルナロジстиクス株式会社 第3倉庫完成 740坪
	10月	緑地公園「ハルナコミュニティガーデン」を整備

## ハルナグループ沿革

2006	1月	ハルナロジстиクス株式会社 第4倉庫完成 860坪・全社IT化に着手
	2月	創業十周年記念総会開催
	4月	ハルナエコロジー株式会社設立
	4月	ハルナエコロジー株式会社、ハルナロジстиクス株式会社共に資本金5千万円に増資
	9月	全工場(第一から第三工場)において、HACCP承認 (厚生労働省発関厚第0912001号)
	10月	「地球市民ウィーク2006 環境活動展」出展(主催:高崎市)
2007	2月	「食品衛生優良施設」として群馬県知事賞受賞
	3月	国際食品飲料展FOODEX JAPAN2007出典
	4月	ハルナエコロジー株式会社附属ウェルネスサイエンス研究所発足
	4月	ハルナエコロジー株式会社 EU輸出用緑茶「YOSHI-GO」発表
	6月	オーパイ株式会社事業譲受契約締結 タニガワビバレッジ株式会社準備開始
	10月	合併会社ハルナヨーロッパ設立
2008	12月	ハルナグループ全体会議開催開始
	1月	タニガワビバレッジ株式会社始動
	2月	タニガワビバレッジ株式会社竣工式開催
	4月	株式会社ハルナビバレッジ研究所、株式会社ハルナ品質環境研究所へ商号変更
	4月	群馬県初のプロ野球チーム群馬ダイヤモンドペガサスをパートナーシップスポンサーとして応援
	6月	CSR報告書発刊開始
2009	6月	ハルナロジстиクス株式会社第5倉庫完成
	1月	タニガワビバレッジ株式会社 天然ガス設備稼働
	1月	組織再編に伴いハルナ品質環境研究所をハルナビバレッジファクトリー株式会社へ商号変更
	2月	ハルナビバレッジ株式会社の経理・財務・人事部門・ハルナインテリジェンスネットワーク株式会社本社移転
	2月	ハルナロジстиクス株式会社 ハルナビバレッジ株式会社へ吸収合併
	4月	ハルナグループ組織再編スタート
2010	1月	新規事業戦略センター設置
	3月	新商品開発プロジェクトチーム発足
	5月	「ハルナビジョン2015」公表
	7月	ハルナグループ企業行動憲章・企業行動規範制定
2011	2月	創業15周年記念誌「はじめなければはじまらない」発刊
	3月	ハルナエコロジー株式会社より H A R U N A 株式会社へ社名変更
	4月	ハルナビバレッジファクトリー株式会社が タニガワビバレッジ株式会社を吸収合併
	6月	エネルギー対策委員会発足
2012	1月	ハルナロジстиクス株式会社 タニガワ地区にG倉庫完成
	1月	震災対策委員会発足
	2月	プラントシステムインバーションプロジェクト「見える化」で、コントロール室完成
	2月	ハルナグループ歴史資料館新設
	4月	ワイエスロジстиクス株式会社より株式を100%取得し、ハルナロジстиクス株式会社へ名称変更

## 2011年度のトピックス

Topics

Topics

30 January 2012

### ハルナロジスティクス株式会社 タニガワ地域にG倉庫完成

G倉庫を含め合計約8,000坪の倉庫が稼働となりました。多くの企業の原材料や製品の在庫拠点、供給拠点としての利用や、輸送をサポートし物流センターを核として、さまざまなお客様のニーズにお応えしています。

- 関越道「月夜野インター」より至近でアクセスが抜群です。
- あらゆる配送ニーズに対応可能です。
- セキュリティーシステムを完備し、情報流出、防犯対策は万全です。



30 January 2012

### 震災対策委員会を発足

東日本大震災により明らかになった諸課題を洗い出し、今後大規模震災が発生した場合を想定し、防災体制の基本計画を災害対策マニュアル作成から事前の対策から被災への支援、また操業の再開・生産活動までを協議します。そして、各工場では防災意識の高揚と防災体制の強化を図るために定期的に実動避難訓練を行っています。



震災対策委員会

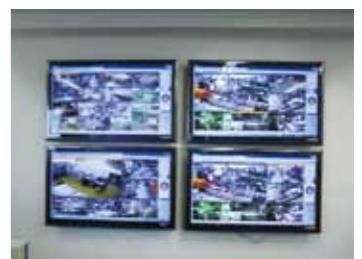


各工場での訓練の様子

23 February 2012

### プラントシステムイノベーション(PSI)計画 見える化にてコントロール室完成

当社の見える化は、生産現場で働く皆が自ら気づき、問題意識を高め、自ら改善する努力を促す仕組みです。そのために現状を理解出来る情報を日ごろから見える状態にし、社員全員が協力して、改善する職場風土をつくることからはじめます。



23 February 2012

### ハルナグループ歴史資料館を創設

グループの将来の社業発展を期し、自社の歴史とその背景にかかる諸資料を保存、展示し、企業理念をご理解いただけるように創業記念館を創設いたしました。



23-27 May 2011

### 中学生の体験学習の推進

以前から実施している大学生のインターンシップの受け入れに加え、製造工場の地元中学生の体験学習も開始しました。社会の仕組から始まり、実際の「ものづくり」の現場を実習することで、生徒たちの意欲的な学習活動につながり、豊かな人間形成をつくりだす事を望んでいます。



01 January 2012

### MOUNTAIN FRESHジュース 2012年料理天国100選の飲料部門を受賞

HARUNA(株)より販売しているオーストラリア産、無添加の100%果汁ストレートジュース「Mountain Fresh」が、その美味しさと品質を評価され、食の専門誌「料理天国」が主催する、食の逸品コンクール「料理天国100選2012飲料部門」に選ばれました。



## 2011年度を振り返って

Profile

### ハルナビバレッジ株式会社 代表取締役社長 青木 麻生



2011年は日本にとって大きな転換点になりました。3月11日の東日本大震災で被災された地域や方々には謹んでお見舞い申し上げます。飲料水という生活に欠かせない供給を担う、私どもハルナビグループにおいても大きな影響がありました。

震災直後からコンビニエンスストアやスーパー・マーケットなどの売り場で生活必需品の一つであるミネラルウォーターに消費者が殺到し、在庫が一斉に無くなってしまう事態になり、私どものお客様であるナショナルブランドやプライベートブランドの流通企業様からミネラルウォーターや無糖茶飲料の受注が通常の2倍以上と急増した状況になりました。そこで、当社は今必要とされている製品の生産に集中し、ラインを止めずに最大限の供給体制を継続することで首都圏や東北地域にも製品を出荷し、生活飲料を必要とされている消費者へ一本でも多くの安心な製品をお届けすることが出来ました。これは社員の働きのみならず、全国の協力委託提携企業様、資材・原料メーカー様などの関係皆様のご協力とご支援のお蔭と改めて感謝申し上げます。

今回の震災を通して、川上から川下までのサプライチェーンの強化、エネルギーの最適な調達、BCPによる事業継続計画の見直しなど、持続可能な企業活動をする上で企業としてリスクマネジメントの重要性が再認識されました。

一方で、1年を通してみると飲料市場はほぼゼロ成長の中、競争環境は厳しさを増しており、お客様へ価値ある商品提案や開発、高い品質レベルの維持、生産現場でのイノベーションによる競争力強化を提供出来る企業力を常に磨き、新しい顧客ニーズに対応した価値創造に継続的に取り組まなければ更なる発展はありません。

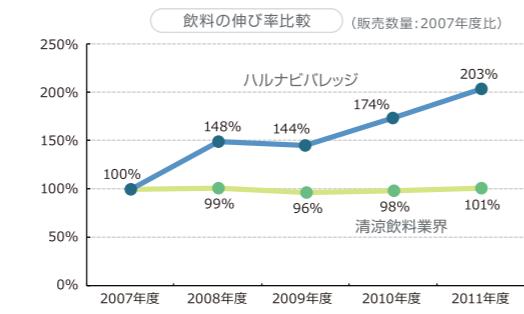


2011年末ハルナビグループ全社員総会

ハルナビグループは2010年に長期経営計画「ハルナビジョン2015」を公表し、私どもが目指す次の3つの経営ビジョンの実現に取り組んできました。

- ① 顧客満足度業界ナンバーワン
- ② 利益を伴う持続的成長
- ③ ステークホルダー皆様の幸せ

ハルナビジョン2年目である2011年度も計画を上回る経営成果を出すことが出来ました。これはグループ各社の自律的成長とグループシナジーの両方の力強さが加わったことでハルナビジョンの実現に向けて着実に前進していると考えております。

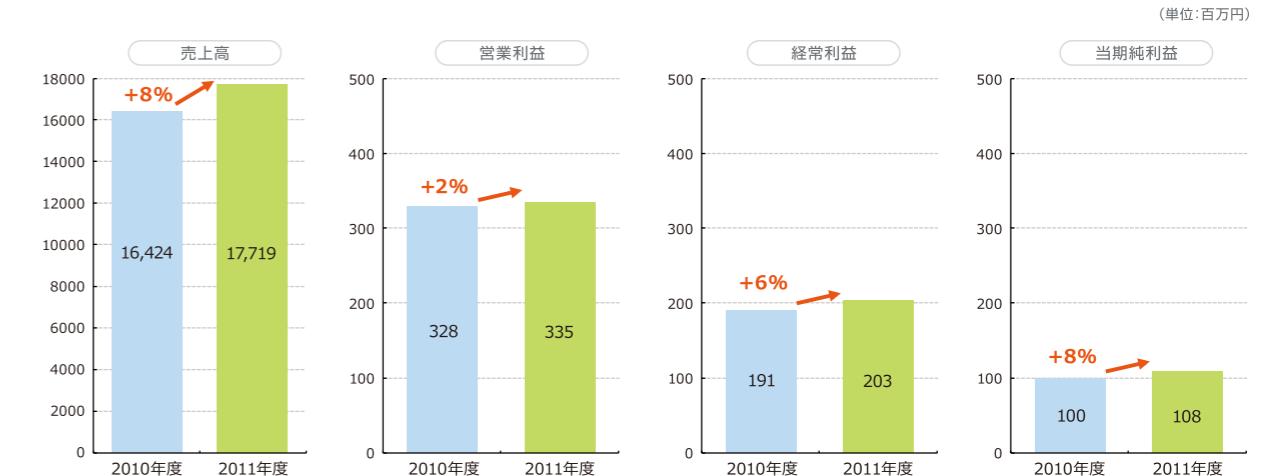


2012年度ステークホルダーレポートのテーマはステイナビリティです。ハルナビグループは生活者に直接飲んでいただく飲料水を製造する社会的責任を自覚し天然資源である水に対する品質保証、工場における節水、排水管理、さらには地域社会での河川清掃活動など水のサステナビリティへの取り組みを継続し、更にはエネルギーについてもハルナ工場稼働燃料を重油から都市ガスへ、本年8月に転換しCO2排出量の削減とエネルギー利用効率の向上へ取り組みを強化してまいります。

2016年に当社は創業20周年を迎えます。飲料業界で唯一無二の独創性ある飲料プロデューサーとしてハルナビグループはこれからもお客様や取引先様、地域社会から支持される企業集団になり、ステークホルダー皆様の幸せと繁栄を追求するべくグループ役員・社員その実現に向かって邁進してまいります。

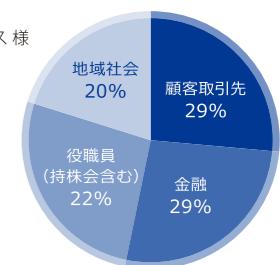
## 2011年度を振り返る 財務報告

Profile



### ◎株主 (五十音順)

●顧客・取引先	●金融機関	●地域社会	●現役員社員
アイティース株式会社様	朝日火災海上保険株式会社様	糸井丈之様	●従業員持株会
株式会社イズミードマシナリ様	株式会社足利銀行様	内田欣治様	
株式会社ウエストコープレーション様	株式会社群馬銀行様	鹿島エレクトロ産業株式会社様	
オアシス株式会社様	東京海上日動火災保険株式会社様	加藤勝二様	
株式会社環境技術様	株式会社東和銀行様	後藤美佳様	
群栄化学工業株式会社様	日本生命保険相互会社様	高橋正光様	
株式会社群成会様	八十二キャピタル株式会社様	田島速都様	
高信化学株式会社様	株式会社八十二銀行様	田中正一様	
小林容器株式会社様	みずほキャピタル株式会社様	中央群馬ホーム株式会社様	
サッポロ飲料株式会社様	三菱UFJキャピタル株式会社様	株式会社つかさフードサービス様	
サンセイ電設株式会社様	三菱UFJリース株式会社様	原株式会社様	
株式会社ジャスティス様	東芝三菱電機産業システム株式会社様	棟名直販株式会社様	
東栄電工株式会社様	株式会社日産サティオ群馬様	棟名酪農業協同組合連合会様	
東芝三菱電機産業システム株式会社様	日本たばこ産業株式会社様	株式会社ブレーン様	
株式会社日本サティオ群馬様	日本鍊水株式会社様	株式会社フレッセイホールディングス様	
日本たばこ産業株式会社様	株式会社ピバック様	株式会社モテキ様	
日本鍊水株式会社様	細谷工業株式会社様		
株式会社ピバック様	マルサンアイ株式会社様		
細谷工業株式会社様	三菱商事株式会社様		
マルサンアイ株式会社様	株式会社安田商店様		
三菱商事株式会社様	和光化学株式会社様		



「ハルナビジョン2015」は今期で2年目を迎えますが、初年度に引き続き大きく計画を上回り順調に推移していると言えます。これは、下記の3点に要因が集約できるものと思います。

- ① 業務改善による固定費比率の引き下げ
- ② 商品開発の積極的展開による商品アイテム数の増加
- ③ 営業投資の峻別によるフリーキャッシュフローの増加

今年度は大震災と原発事故の関係で多くの方が災難に見舞われましたが、その時においては全社員一丸となって、飲料水の供給に努めていました。今後も企業の財務的価値向上と企業の社会的責任遂行により、企業価値を持続的に高めていってほしいと思います。



ハルナビバレッジ株式会社 最高監査役  
小出公認会計士 税理士事務所 代表者

小出信介